

# 白藍塾オリジナル

## 2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●慶応・看護医療学部

今年度は3つの設問からなっているが、最初の2つは明らかに説明問題で、最後の1問も、論述問題というよりは説明問題に近い。形式としては、2013年度に近い。

課題文は、哲学者である森有正の有名な文章だ。一般向けに易しく書かれてはいるが、内容は意外に難しい。

課題文によれば、「体験」とは過去の経験が固定化して、そのままの形でくり返されるもの。逆に「経験」とは、新たな出来事によってつねに更新され、自分の中に蓄積されていくものだ。重要なのは、「体験」と「経験」は決して別のものではなく、ある経験が過去化して「体験」になるか、(筆者の言う意味での)「経験」になるかは、本人の努力次第、という点だろう。

問題1は、以上のような内容を、字数に合わせてまとめればよい。この場合は、基本型Bを使って、「経験」と「体験」それぞれについて説明した上で、最後に両者の違いをまとめるほうが書きやすいだろう。

問題2は、「経験というのは、あくまで未来へ向かって開かれる」という箇所の説明が求められている。簡単に言えば、「固定観念に囚われず、新しいものを柔軟に受け入れて、自分の可能性を高める」ということなので、その点がきちんと説明できていればよいはずだ。問題1と部分的にかぶってしまうかもしれないが、それはやむを得ないだろう。

問題3は、同じ箇所の具体例を述べよ、というもの。「経験」については、課題文の中に具体例がないので、独力で考えるしかないが、「体験」の具体例がいくつか挙がっているので、それが参考になる。

たとえば、課題文は、「体験」的な考え方の例として、東洋医学を挙げている。それは、東洋医学が、過去に有効だったという理由だけで、ある病気の患者に対して特定の薬や治療法を機械的に与えるものだからだ。とすれば、理論上の新しい知見や患者との関係性の変化などを踏まえて、つねによりよい治療法を模索するのが「経験」的な考え方、ということになる。これが現代医療の基本的な考え方であることに気づけば、出題者のねらいもつかめるはずだ。

もちろん、看護医療学部だからといって、医療にかかわる例にこだわる必要はない。老人が戦争の記憶をくり返し話すのは「体験」にすぎないと筆者は言っているが、だとすれば、国際情勢や時代の変化を踏まえて「戦争」の意味をつねに問い直す作業が「経験」だということに

なるだろう。このように、「体験」の具体例と対比させることで、「経験」の事例も考えやすくなる。

どの設問も、課題文をいかに的確に理解できているかがポイント。同時に、患者との関係性や実証性を重視する現代医療の考え方が理解できていれば、出題者のねらいもつかみやすくなるはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>